

# 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス 2009(平成21)年度事業報告

カンボジア王国	2009年度事業決算	9,163,567円
---------	------------	------------

## ●地雷埋設地域村落開発プロジェクト

バタンバン州カムリエン郡の2村で、村落開発支援を実施しています。2村は、どちらも提携する地雷撤去団体MAGによって地雷撤去が実施され、村人の生活圏内の地雷は撤去されましたが、まだ村の中には地雷原が残っている場所があります。

### 【オッチョンボック村】

2008年10月より始めたマイクロ・クレジット（小規模融資）制度や健康保険制度は、村人たちによって運営されています。健康保険制度は、村人たちの話し合いで、保険料を貸し出す仕組みに変更されました。すでに治療が必要な村人、10家族に保険を適用し、貧困層の生活を守ることに繋がっています。

村の79名の貧困のために学校に通えていなかった子どもたちには、制服と文房具を提供したことで、小学校に通えるようになっています。

このほか、地雷被害者トーンさんへの職業訓練として、散髪技術訓練、そして貧困層の若い女性4名を対象にした裁縫技術訓練を、村で実施しています。



地雷被害者への散髪技術訓練

### 【プレア・プット村】

2009年10月よりマイクロ・クレジット制度を村の住民組織が設立し、70家族への融資を始めました。また、健康保険制度も始まっています。

村にあるプレア・プット小学校では、第3回「頑張らない」チャリティ・バドミントン大会での収益からご寄付いただき、屋根と一部の壁の修理を実施しました。同小学校では、11月に長崎のNPO法人コミュニティ時津の4名の皆様に来ていただき、文房具や絵本を寄贈いただくとともに、図書室づくりや清掃を、村人や子どもたちと一緒に実施しました。



子どもたちとの小学校清掃

## ●サムロン・チェイ村橋建設支援プロジェクト

カンボジア、バタンバン州バヴェル郡サムロン・チェイ村では、株式会社穂高住販様のご支援で、6月から7月にかけて、村へつながる道にかかる2本の橋を建設しました。2本の橋が完成したことで、車はもちろん、牛車やトラクターで村までアクセスできるようになりました。

## ●地雷撤去支援プロジェクト

2009年8月と2010年3月に行った2回のスタディツアーの際に、提携する地雷撤去団体MAGへ、地雷撤去活動費として合計6,000ドルを提供しました。



地雷撤去作業



卒業式でのカンニャさん（中央）

## ●女性義肢装具士養成プロジェクト

テラ・ルネッサンスでは、2006年10月からカンボジア義肢装具士養成学校で勉強するカンボジア人女性、ヒム・カンニャさんに、奨学金を提供してきました。カンニャさんは、2009年9月10日、3年間の課程を修了し、見事厳しい最終試験に合格して、卒業しました。彼女は、技術や知識、英語の上達はもちろん、精神的な成長にも目を見張るものがありました。2009年12月からシハヌーク・ヴィルにあるNGOカンボジア・トラストの運営するリハビリテーションセンターで、義肢装具士としての一歩を踏み出しています。

ラオス人民民主共和国	2009年度事業決算	1,454,493円
------------	------------	------------

## ●不発弾埋設地域中学校建設プロジェクト

2008年12月から進めてきた不発弾撤去と、撤去した後の土地に中学校を建てるプロジェクトは、2009年5月に建設が完了しました。



5教室の中学校校舎

9月1日に、シエンクアン県ノンハット郡カンパニオン村で、完成した中学校の開校式を行いました。日本からは不発弾撤去と中学校建設費用をご支援くださったプレマ株式会社の社員の皆様が、浴衣を着てご参加くださり、村人たちが闘牛や伝統舞踊で歓迎するという盛大な式になりました。

カンパニオン村は、周辺14村の中心に位置している村で、小学校があります。しかし、小学校を卒業しても、子どもたちは、中学校がないために、小学校の教室を使って午前、午後に分かれて勉強していました。今回、中学校が完成したことで、203名の生徒が、一日中勉強できるようになりました。今まで中学生が小学校の教室を使っていたために、限られていた小学生の授業も、十分にできるようになりました。

京都文紙事務用品組合の皆様には、開校式に合わせて、文房具をご支援いただき、寄贈いたしました。



開校式にて

## ●不発弾撤去支援プロジェクト

ベトナム戦争中に、米軍によって落とされたクラスター爆弾の不発弾汚染がひどいシエンクアン県で、不発弾撤去をするMAG-Laoは、不発弾撤去に必要な金属探知機が不足しているために、作業がとても遅くなっていました。そこで、今年度、2台の金属探知機（1台約6200ドル）を提供しました。

## ●ウガンダ北部における元子ども兵社復帰支援プロジェクト (対象地域：グル県)

元子ども兵129名を対象とした支援活動を行いました。

1期生15名と2期生23名は2009年5月に支援を完了し、それぞれが洋裁、手工芸、小規模ビジネスなどによって、一般住民と変わらない収入を得て、経済的に自立することができています。また、近隣住民との関係も改善され、お互いに物の貸し借りや、子どもや病人の面倒を見合うなど相互扶助（助け合い）の活動もできるようになっており、心理的なトラウマも受け入れ当初に比べて減っています。



フルタイム訓練を終えて、木工大工用具を受け取った4期生の元子ども兵

3期生及び4期生はフルタイムでの社会復帰のための訓練を終えて、今年度は村や町で実際に収入を得る練習を行っており、そのために必要な追加の訓練（パートタイム）やマイクロクレジットの支給、木工大工の工具や、小規模ビジネスに必要な用具などの支給、収入向上のための指導などを行いました。

また、今年度受け入れた5期生38名は、社会復帰に向けて下記の支援を行いました。

### ①BHN（人間としての基本的なニーズを満たす）支援活動

生活を安定させるために、訓練期間中、受益者とその家族の状況に応じて、毎月の食費と医療費をクーポンチケットで配付しました。そのクーポン券は、受益者それぞれの近くの食料品店、診療所でのみ使えるようテラ・ルネッサンスと契約し、村の診療所で治療が困難な場合は、ラチョー病院（北部地域最大の病院）などに搬送し、治療や診療の支援を行いました。また、受益者の家族の状況に応じて、家賃や生活必需品の支給などもあわせて行いました。なお、訓練期間中は、毎日給食を施設内で調理し提供しました。

### ②能力向上支援活動

受益者が収入向上活動を始めるのに必要な職業技術、識字、計算などの能力を向上するための基礎教育などを行いました。職業訓練では、洋裁、手工芸、服飾デザイン、木工大工の4科目を開講し、基礎教育の授業で識字、算数、英語の授業を行いました。また、幼児を持つ元少女兵たちが育児に関する基礎的な知識を習得するために、公衆衛生、母子健康保健に関する授業を週1回開講しました。

### ③心理社会支援活動（ルーツ&シューズ活動）

各受益者によって悩みやトラウマの程度もさまざまであることから、個別カウンセリングとグループでのクラス（ルーツ&シューズ活動：音楽や伝統ダンス、自作劇の創作）などを通じた心理社会サポートを行いました。同時に、アチョリ民族の伝統的な和解メカニズムや、ことわざをもとにした平和教育も行いました。また、毎週土曜日には、元少女兵の子ども（6歳～14歳）と近隣住民の子どもに対しても、伝統ダンスや歌、演劇の授業を開講しました。

### ●不法小型武器問題の啓発活動（対象地域：カンパラ市）

ウガンダ国内で不法小型武器問題の啓発活動に取り組むNGOのネットワーク組織であるUANSA(ウガンダ小型武器行動ネットワーク)との定期的な情報交換を行い、各種会合へ参加しました。また、これらの会合の中で、小型武器の被害を止めるためには、ウガンダ国内だけでなく、小型武器の流入が頻繁に行われている近隣諸国を含めた、「アフリカの角・大湖地域（東アフリカ地域）」に広がる市民社会の協力・ネットワークを強化することが重要との認識から、同地域の市民社会のネットワークであるEAANSA(東アフリカ小型武器行動ネットワーク)が啓発活動を行う上で必要となるパンフレットなどの資料作成のための情報収集、意見交換などを行いました。（来年度に冊子として完成予定）

コンゴ民主共和国	2009年度事業決算	3,029,120円
----------	------------	------------

昨年度に引き続きコンゴ民主共和国東部での事業を、南キブ州にて、同州ブカブ市に拠点を置く現地NGO「GRAM（グラム）」と連携し実施しました。同事業では、昨年、株式会社アイケイ様のグローブ基金により完成したグローブハウスⅢを拠点に、同州カロンゲ区域の12ヶ村の元子ども兵、性的虐待を受けた女性、孤児などの社会的弱者711名及びその家族2,700名を対象に、紛争下で基本的ニーズを満たすことを目標に行っています。

今年度、実施した活動は下記のとおりです。

### ●食料確保のための相互扶助（助け合い）活動

同地域は現在も武装勢力（FDLR）の影響下にあり、村々の襲撃や住民の殺害、食料の略奪などによって人々は不安定な生活を余儀なくされています。こうした状況の中、必要な食料を確保するために相互扶助グループを組織し、農業指導や農具、種子の供与、魚の養殖池の整備などを行ってきました。対象地域12ヶ村の各グループが協力して食料を生産し、収穫が少なかったり、武装勢力による食料の略奪などの影響を受けた他のグループを補助する仕組みで、受益者の相互扶助（助け合い）を促進しながら、自給食料の安定化を目指してきました。今年度は現金収入のための余剰作物までは生産できなかったものの、12ヶ村の全グループが自給に必要な作物を生産することができました。また、魚の養殖用のため池が完成し、稚魚1,280匹を放流しました。そして、そのため池で繁殖した稚魚を放流する新しいため池を、4ヶ村（4グループ）がそれぞれの村に完成させました。

自給用農作物を収穫する様子



魚の養殖準備に取り組む元子ども兵



洋裁訓練の修了証書を手にする受益者



木工大工の訓練を受ける元少年兵

## ●収入向上のための職業訓練

元子ども兵15名への木工大工の職業訓練、紛争被害を受けた11名の女性への洋裁訓練を実施しました。また、手工芸品（ペーパービーズ）の指導員を育成するためにGRAMスタッフへの実地研修を行い、育成された指導員が受益者20名へのペーパービーズ製作の技術指導を行いました。

## ●初等教育支援

紛争下で教育の機会を奪われていた158人の孤児に、1年間の基礎教育（インフォーマル教育）を現地住民の協力のもと、行いました。（※小学校低学年程度の基礎教育能力を身につけ、面接などの試験に受ければ、公立小学校の中学年に編入が可能）



教育の機会を奪われ、小学校に通うために基礎教育を受ける孤児

## ●その他の活動

対象地域の主要産業の1つが木材産業であるため、持続可能な資源の利用を目的とした、環境教育ワークショップを、地元の木材ビジネスのグループや住民に対して2度行い、政府の土地に、受益者と現地住民が協力し、12,000本の植林を行いました。また、受益者が心理社会的に安定するように、個別カウンセリングをグローブハウスIIIで行いました。

日本	2009年度事業決算	14,041,733円
----	------------	-------------

## 1. 啓発事業

本会の活動や、取り組んでいる課題（地雷、小型武器、子ども兵）についての啓発活動を、講演やイベントなどの実施を通じて積極的に取り組んだ。

### ●講演

理事長、本会職員による講演を各地で実施。企業での講演が増加した。主なテーマは、「地雷畑で見た夢（地雷）」、「ぼくは13歳 職業、兵士。（子ども兵）」、「こうして僕は世界を変えるために一步を踏み出した（社会企業）」

### ●主催イベント

現地活動報告会を、計4回実施した。延べ400名が参加。

- 06月05日（金） ラオス事業報告会（京都）
- 06月18日（木） ウガンダ事業報告会（東京）
- 07月04日（土） ウガンダ事業報告会（京都）
- 07月18日（土） ウガンダ事業報告会（愛知）

### ●各種イベントへの参加

下記イベントに参加し、本会の活動紹介や取り組んでいる課題の啓発などを行った。

- 05月16日（土）～17日（日） アフリカンフェスタ（主催：外務省）
- 06月21日（日） 松緑神道大和山ウガンダ事業報告会（主催：宗教法人松緑神道大和山）
- 07月11日（土） チャリティバドミントン大会（主催：頑張らないバドミントン研究会）
- 07月27日（月） チャリティチャイルドカット（主催：クンクンルーホー）
- 08月02日（日） 国際協カステーション（主催：財団法人京都府国際センター）
- 09月12日（土）～13日（日） チャリティバザー（主催：宗教法人松緑神道大和山）
- 10月17日（土） 京都ヒューマンフェスタ（主催：京都府）
- 11月30日（月） チャリティチャイルドカット（主催：クンクンルーホー）
- 12月20日（日） 市民活動フェスタ（主催：京都市市民活動総合センターほか）
- 01月11日（月） 子ども@まつり（主催：NPO法人京都子どもセンター）
- 02月06日（土）～07日（日） ワン・ワールド・フェスティバル（主催：同実行委員会）
- 02月12日（金） 「Let'sいっちょカマー」キャンペーン（主催：同実行委員会）
- 03月08日（月） チャリティチャイルドカット（主催：クンクンルーホー）
- 03月14日（日） 多文化まつり（主催：伏見青少年活動センター）

### ●スタディツアー

下記のとおり、カンボジアでスタディツアーを企画した。参加者は合計21名。

- 08月17日（月）～08月22日（土） カンボジアスタディツアー11名
- 02月28日（日）～03月07日（日） カンボジアスタディツアー10名

## ●インターネット

公式ウェブサイト、公式ブログ、カンボジア事務所ブログ、理事長ブログ、職員ブログなどを開設し、適宜、活動の最新状況を伝えるべく更新作業を行った。また、メールマガジン「テラ・ルネニュース」を定期的に発行し、744名の読者に、活動報告、イベント情報などを提供している。

## ●報道

理事長講演やイベントを開催するごとに、プレスリリースを発行し、取り組みが報道されるように努めた。

## ●インターン、ボランティアの受け入れ

今年度は3つの受け入れ方法で、延べ12人のインターンを育成した。

テラ・ルネッサンス 独自受入インターン（半年～1年以上）		昨年度より継続受入5人 新規受入3人 延べ8人	
受入目的	①長期的に事業にかかわってもらうことで、当会の事業を担う人材を育成する。 ②当会の事業を通じ、「平和な社会」を自ら作り出せる人材を育成する。		
受入実績	継続～01月	立命館大学博士課程前期2回生	支援者サービス担当
	継続～10月	龍谷大学4回生	募金箱事業担当
	継続～09月	同志社大学3回生	回収事業担当
	継続～08月	社会人	機関誌、イベント担当
	継続～継続	立命館大学博士課程前期1回生	ボランティア事業担当
	10月～継続	立命館大学3回生	物品販売担当
	12月～継続	大阪大学3回生	Webサイトリニューアル事業担当
	01月～継続	立命館大学4回生	Webサイトリニューアル事業担当

大学コンソーシアムインターンシッププログラム (夏季2カ月間)		1人	
受入目的	当会の事業を通じ、職業としてのNGO・NPOを就職の選択肢として考えてもらうきっかけとする。また、企業に勤めた際にも、社会貢献の視点を持った働きかたをしてもらうよう、育成する。		
受入実績	08月～09月	立命館大学3回生	インターン業務マニュアル制作担当



長期実践型インターンシッププログラム（半年間）		3人	
受入目的	① 京都のNPO6団体が協働し、次世代のNPOワーカーを育成する。 ② NPOの現場に即したインターンプログラムを構築する		
受入実績	04月～継続	龍谷大学3回生	回収事業拡大プロジェクト担当
	10月～03月	大阪大学4回生	回収事業拡大プロジェクト担当
	10月～継続	立命館大学2回生	パネル事業拡大プロジェクト担当

## 2. 組織運営に関する報告

### ●会員現況（2010年3月末日現在）

正会員144名、個人賛助会員429名、ジュニア賛助会員13名、団体賛助会員36団体、ファンクラブ会員317名 【合計延べ939名】 /ルネッサンス・プログラム・サポーター（里親）78名

### ●各種回収キャンペーン

今年度、書き損じハガキ、使用済みインクカートリッジなど、国際協力事業費に充てるための回収キャンペーンを実施。

### ●協力団体との連携

今年度は8団体に加盟し、さまざまな協働事業、キャンペーンなどを実施したり、自団体の活動を展開する上で有益な情報を得ることができた。（関西NGO協議会、地雷廃絶日本キャンペーン、日本小型武器行動ネットワーク、ウガンダ小型武器行動ネットワーク、国際小型武器行動ネットワーク、世界子ども兵禁止連盟、京都NGO協議会、児童労働ネットワーク）

## 体制

### ●役員（理事、監事）

2009年度の役員は、次のとおり。（2009年3月31日現在）  
理事 小川真吾、岡田則子、鬼丸昌也（理事長）、中井隆栄  
監事 本田俊雄

### ●事務局体制

京都事務局 有給専従職員4名 インターン12名で運営を行った。  
ウガンダ事務局 日本人有給職員1名、ローカルスタッフ12名で運営を行った。  
カンボジア事務局 日本人有給職員1名、ローカルスタッフ8名で運営を行った。